自動車リサイクル促進センター
×
福井県

SDGs債

エンゲージメント企画

スピーカー

- 自動車リサイクル促進センター　業務執行理事（CFO）大久保 英明 様
- 福井県　総務部長　服部 和恵　様

モデレーター

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
デット・キャピタル・マーケット部長　野村 憲彰

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

2024年11月

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

開催日時	2024年10月16日（水）
場所	福井県庁内会議室において実施

はじめに

MUMSS 野村

本日は、SDGs債のエンゲージメント企画ということで、2023年10月に初めてグリーンボンドを発行し、先日10月に2回目を発行した福井県様から服部総務部長、公益財団法人の中でSDGs投資のトップランナーである、公益財団法人自動車リサイクル促進センター様（以下、JARC）から大久保業務執行理事（CFO）にお集まりいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、服部様より、御県の概要とグリーンボンドの概要について簡単にご紹介いただけますでしょうか。

1）福井県様のご紹介

福井県 服部様

福井県で総務部長を務めております服部です。よろしくお願いします。

本県は、本州のほぼ中央に位置し、豊かな自然・景観に恵まれた地域です。

製造業の盛んなものづくり県であり、産業の集積により、県民の就業率や正規就業割合が全国上位にあるなど雇用環境は良好な自治体となっております。実際に、民間機関が実施している「幸福度ランキング」では 6 回連続で日本一に選ばれており、高く評価されています。

本県は、2050年のカーボンニュートラルに向けた気候変動への適応策を推進すべく、必要となる資金をグリーンボンドとして調達した次第です。また、グリーンボンドの発行を通じ、県内外の方々に本県の取組みを知っていただくとともに、より多くの関係者の皆様と一緒に環境に配慮した取組みを推進したく、今年度は発行額を更に増やし、発行に至った次第です。

MUMSS 野村

ありがとうございます。2023年に福井県様として初となるグリーンボンドのご発行をされましたが、特に力を入れた事項や、苦労されたことはございましたでしょうか。

福井県 服部様

本県として初めての発行であったため、フレームワークの策定や第三者評価機関の評価、資金使途の開示など、これまでの債券発行には無い手続きが多かったものの、グリーンボンドの発行を通じた投資家の皆様との関係創出、そして本県取組みの周知は重要な発行意義であるとの考えの下、投資家の皆様を招聘したセミナー開催など、時間と労力は惜しまずに発行準備を行いました。

福井県 服部和恵 総務部長

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

MUMSS 野村

ありがとうございます。丁寧に準備を進められ、福井県様として初のご発行となったグリーンボンドについて、投資家の皆様からは実際にどのような反応でしたでしょうか。

福井県 服部様

初回となった2023年は80件の投資表明、今年は93件の投資表明をいただき、多くの投資家の方々に本県の取り組みについてご賛同いただけました。

特に初回債では、約7割となる57件の県内投資家からの投資表明となりました。

今回、お越しいただいた自動車リサイクル促進センター様からも、投資表明とともに本県グリーンボンドを購入いただきました。グリーンボンド発行が本日のような貴重な対談の場に繋がったものと、改めて成果を実感しています。

2）自動車リサイクル促進センター様のご紹介

MUMSS 野村

ありがとうございます。それではここで、公益法人のESG投資のトップランナーである自動車リサイクル促進センター様より、事業概要についてお伺いしたいと思います。大久保様、よろしくお願いいたします。

JARC 大久保様

本日はこのような貴重な機会をいただき、福井県様に心より感謝申し上げます。

事業概要についてですが、JARCは自動車リサイクルの様々な課題に対応するために、自動車業界の横断的な機関として2000年に設立されました。その後、2005年1月に施行された自動車リサイクル法に基づき、自動車リサイクル制度がスタートしました。

JARCは自動車リサイクル制度における国の指定法人として、自動車ユーザーの皆様からお預かりしたリサイクル料金の管理・運用をはじめ、使用済自動車のリサイクルに関する情報管理、自動車リサイクルのセーフティネットとして離島で発生した使用済自動車の海上輸送への支援といった業務を行っています。能登半島の震災で発生した輪島朝市での火災により被災した自動車の撤去についても、セーフティネット業務として、環境省や輪島市、解体事業者団体と連携して適正処理がなされるよう協力させていただきました。

また、自動車リサイクルの促進に関する調査・研究、普及・啓発なども行っており、特に、将来の自動車ユーザーである子どもたちへの学習機会の創出にも力を入れており、毎年、小学生を対象とした「自動車リサイクルの現場見学会」や「クルマのリサイクル作品コンクール」を開催しています。

自動車リサイクルの促進を通じて、CO2の排出抑制や気候変動、資源の枯渇、ごみ問題といった様々な課題の解決に貢献すると共に、国民のリサイクルや環境に対する意識を高める啓発活動にも積極的に取り組むなど、多岐にわたる活動をしているところです。その一環として、ユーザーからお預かりしたリサイクル料金の運用において、SDGs債への投資を積極的に行っております。

自動車リサイクル促進センター
大久保英明 業務執行理事（CFO）

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

（数値は2023年度実績）

※写真はイメージです。

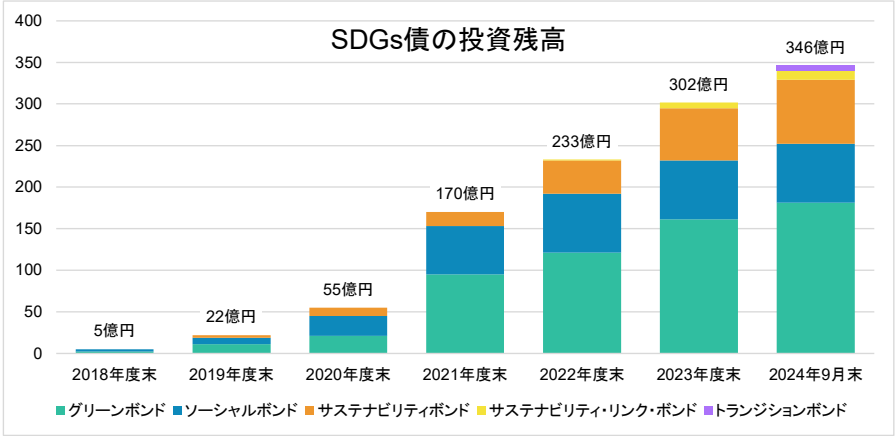
MUMSS 野村

ご説明いただきありがとうございます。では、SDGs債への投資方針とこれまでの実績についてご説明いただけますでしょうか。

JARC 大久保様

はい。JARCでは、3つのSDGs債への投資基準があります。「環境や社会に対する改善効果」、「ガイドライン等への適合及び第三者機関による評価」、「資金使途の明確さ」、この3つを重視しております。

これまでの投資実績ですが、公共債については2018年からSDGs債への投資を開始しました。近年では、資金運用の原資であるリサイクル料金の性質を鑑みて、グリーン性の高いボンドを積極的に取得しており、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた投資も行っております。2024年9月末時点で、投資を行った発行体は42発行体まで増加し、SDGs債の投資残高は346億円にまで達しています。保有資産の総額が9,088億円ですので、SDGs債の割合は4%に相当します。将来的にはこの割合が10%程度に達することを目指して、引き続き積極的にSDGs債を取得していきます。



対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

3）福井県グリーンボンドについて

MUMSS
野村

ありがとうございます。それでは、福井県様と自動車リサイクル促進センター様の実際の対談に移りたいと思います。まず私から、福井県様が発行されたグリーンボンドの詳細についてお伺いしたいと思います。具体的な発行の経緯や目的についてご説明いただけますでしょうか。

福井県
服部様

本県では、気候変動の緩和及び適応に関する施策を推進するための資金調達としてグリーンボンドを発行することで、CO2排出量を削減する緩和策に加え、気候変動による自然災害の影響を軽減・回避する適応策を推進しながら、生物多様性に配慮した活動や利活用が定着し、人と自然との共生が図られる取組みを進めることを目的としています。

また、グリーンボンドの発行を通じて投資家層の拡大による安定調達を実現するとともに、これを一つの契機として、県民、事業者、行政等のあらゆる主体とのパートナーシップによる持続可能な社会の実現に向けた取組みや気候変動問題への対応を金融面から推進していくことも目的としております。

特に、初回債である2023年のグリーンボンドでは、翌年3月に開通を控えていた北陸新幹線の整備を充当予定事業に含めており、グリーンボンドの発行を通じた北陸新幹線開通のPR効果も加味し発行に至りました。

JARC
大久保様

SDGsへの取組みを推進されているとのことですが、SDGs未来都市にも選定されている福井県様の、これまでの取組実績についてご教示いただけますか。

福井県
服部様

地域を取りまとめる自治体として、SDGsディレクターとコーディネーターを配置し、企業や団体を訪問する他、SDGsの集中啓発期間を設定の上、「ふくいSDGsフォーラム」を開催する等、持続可能社会の実現に向けた共同推進体制を強化しています。

また、教育機関とのSDGsパートナーの連携を促進するとともに、SDGs講演会の開催やSDGsリーフレットを学校に配布する等、次世代育成に向けた取り組みを行っています。（次頁に続く）

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

福井県 服部様	昨年度発行した初回のグリーンボンドの充当事業関連では、充当資金と想定される環境改善効果について、今年8月にインパクトレポートを公表しました。最も充当割合が大きい北陸新幹線整備では、年間5万9千トンのCO2排出量削減に繋がっており、環境面への効果を明確に示しています。
JARC 大久保様	ありがとうございます。今お話しいただきましたグリーンボンドについて、いくつかお伺いします。まず、一般地方債ではなく、グリーンボンドを発行することで注力されたい事業についてご教示いただけますか。
福井県 服部様	本来、自治体が発行する債券は公共性が高い事業に充当されるものであり、本源的にSDGs債の性質を有しております。そういった意味で、いずれの事業も重要であり、一般地方債やグリーンボンドという区切りで事業に濃淡はないものと考えます。強いて言うのであれば、グリーンボンド発行を通じて多くの方に本県取組みを知っていただくこと、SDGsの重要性を知っていただくこと、これらを重視しつつ、本県の事業や計画を踏まえ、ICMA原則に沿った事業をピックアップし、カーボンニュートラル実現により一層資する事業への注力に向け、ラベル付き債券としてグリーンボンドを発行している次第です。
JARC 大久保様	ご説明ありがとうございます。続いて、今年8月にインパクトレポートを公表された昨年度の御県グリーンボンドについて、実際の資金充当状況や効果、充当割合についてご教示いただけますか。
福井県 服部様	調達した50億円のうち、7割となる35億円を北陸新幹線の整備事業に充当しました。新幹線はクリーン輸送の事業区分として、年間約5万9千トンのCO2排出量削減の効果が想定されており、環境分野へのインパクトも大きいです。 次いで、気候変動への対応として、災害時の緊急輸送道路となる中部縦貫自動車道の整備に約6.5億円。生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理として、県立大学先端増養殖学科の開設事業に約6億円の充当となりました。その他、照明のLED化や林道整備等にも充当し、幅広い環境改善効果を見込んでいるところであります。
JARC 大久保様	ありがとうございます。今ご説明いただきました初回債に続き、先日継続発行された2回目のグリーンボンドにて調達された資金の充当予定事業について、何かトピックス性を有する事業はございますか。
福井県 服部様	2023年10月に発行となった初回債は、2024年3月の北陸新幹線開業に向けて7割近くが北陸新幹線整備事業への充当となりました。2回目の発行となりました今年度のグリーンボンドを含め、今後は、本県フレームワークに掲載しております北陸新幹線整備の他、公共施設等の木造化・木質化など、本県のSDGsへの取組みに通じる事業への幅広い充当を予定しております。

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

JARC 大久保様

御県も参加されているグリーン共同債について、個別発行分と比較し、調達資金や充当先に違いがあるのでしょうか。

福井県 服部様

グリーン共同債には、本県のグリーンボンド・フレームワークで定められている対象事業のうち、主に河川改修、ダム建設や治山施設整備等の公共事業を中心として充当する予定です。

グリーン共同債と個別発行分とで調達資金や充当先に大きな違いはない一方で、個別発行は「本県の取組内容・取組姿勢の伝播」、グリーン共同債は「調達手法の多様化」と、それぞれ目的が異なっています。

JARC 大久保様

ありがとうございます。福井県様のグリーンボンドについて、さらに深く知ることができました。

福井県 服部様

ありがとうございます。SDGs投資を推進される御財団について、私からも何点か質問させてください。御財団はSDGs投資を推進される中で、今回のような、発行体とのエンゲージメント企画を多く実施されてきたとの認識ですが、これまでの実績や詳細をご教示いただけますか。

JARC 大久保様

JARCでは、ESG投資を推進する投資家の中でも先駆的な取組みとして、2020年以降、公共セクターにおける発行体とのエンゲージメント企画を進めて参りました。これまで7回、様々な発行体とのエンゲージメント企画を実施するとともに、エンゲージメント企画を通じ、多様な角度でSDGs分野に関する考えや取組内容を発信して参りました。JARCでは、SDGs債の発行を通じてSDGsの分野に積極的に取り組んでいる発行体とのエンゲージメント、深い繋がりを持った関係性の構築を実現し、資本市場を通じた持続可能社会の実現を重視しております。

また、リサイクル料金を支払っている自動車ユーザーの中にも自動車リサイクル制度がどのような制度か、リサイクル料金が具体的にどのように運用されているかを知らない方々がまだまだ一定割合います。JARCが行っている自動車ユーザーを対象に行っているアンケート結果では、「自動車リサイクル制度をまったく知らない」が19％、「名前を聞いたことがある」が43％で、「どんな仕組みかを知っている」との回答は38％にとどまります。そのため、エンゲージメントや投資表明を積極的に行うことを通じて「ユーザーからお預かりしているリサイクル料金が、自動車のリサイクルそのものだけではなく、その『運用』を通じても社会へ貢献していることを積極的にアピールしていきたいと考えています。

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

福井県
服部様

ありがとうございます。本県は「自動車大国」とも呼ばれるくらい、県民の生活と自動車が密接に関係している県でもあります。自動車ユーザーにとっては、自分が乗っている自動車がどのようにリサイクルされるのかは大変関心の高い事柄と考えます。自動車リサイクル制度は上手く機能していると伺っていますが、今後の課題についてご教示いただけますか。

JARC
大久保様

いま、自動車産業を含む社会全体が環境に配慮した持続可能なものに変わっていく時期を迎えていると思います。持続可能な循環型社会の実現のために、自動車リサイクルにおいても、使用済となった自動車をより質の高い資源として再活用していくことは今後の重要なテーマの一つです。

自動車のリサイクル率は日本の他の製品と比較してもトップクラスで、自動車全体の約99%が資源やエネルギーとして再利用されています。ただ、部品や金属を回収した後に残るシュレッダーダストは、焼却して熱エネルギーを回収・利用するサーマルリサイクルで、サーマルリサイクルでは熱エネルギーを回収した時点で資源の循環が途切れてしまいます。これを再生資源として再利用するマテリアルリサイクルへと変え、可能な限りCar to Carの資源循環を進めていくことなどによって「くるまのサーキュラーエコノミー」を実現していくことが今後の課題とされています。JARCは、自動車リサイクルにおけるセンターポジションの立場からハブ機能を担うことで、メーカーやリサイクル事業者をはじめとした関係主体間の連携・協働を促し、サーキュラーエコノミーの実現、あるいはカーボンニュートラルにも貢献していきたいと考えています。

福井県様では先進的にカーボンニュートラルの取組みを行っている企業や団体を応援する「カーボンニュートラル推進企業表彰」を行っていると伺いました。是非とも、マテリアルリサイクルなどに積極的に取り組むリサイクル事業者を表彰していただくなど、県内におけるサーキュラーエコノミーを牽引いただければと思います。

私からも、SDGs分野において先進的な取組みを推進されている福井県様が見据える、今後の持続可能社会の展望についてご教示いただけますか。

福井県
服部様

先を見通しがたい困難な時代に、SDGsの理念に沿った持続可能な社会を実現するためには、今ある良さを次世代に継承することはもとより、新たな価値を創造し、絶えず成長する経済社会であることが必要です。

こうした中、本県では、県民の皆さんと福井の将来像を共有する「福井県長期ビジョン」を策定するとともに、SDGsの理念である「誰一人取り残さない。多様性と包摂性のある持続可能な社会」に沿いながら、「2040年に目指す姿」を掲げております。

本県は長い時間をかけて県民皆で培ってきた「安心と信頼の社会基盤」を有し、今また、東西南北へと大きく広がる高速交通インフラの整備を進めています。

これらを最大限に活かし、“くらしの安心”と”社会の活力”、そして”県民の誇り”が相乗的に高まり、好循環を創出する「福井モデル」の確立を目指します。

また、「福井の未来を担う次世代の育成」も重視し、経済・社会・環境の好循環を生み出し、持続可能な地域となることを目指して参ります。

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

4）SDGs債市場の今後について

MUMSS
野村

服部様、大久保様、ありがとうございます。SDGs債の引受・販売を行う我々証券会社も、今お伺いしました内容を踏まえた日々の活動が重要であると強く実感しました。

そのうえで、公共セクターにおけるSDGs債市場の拡大について、どのようなお考えやビジョンをお持ちなのか、御両名にお伺いしたいと思います。まずは服部様、お願いいたします。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券
野村憲彰 デット・キャピタル・マーケット部長

福井県
服部様

はい。SDGs債市場の拡大は、グリーンボンドを継続発行する本県にとって、貴重な調達市場であり、今後の持続的な発展を望んでおります。また、グリーンボンドの発行は、本県のSDGsの取組内容を多くの方々に知っていただける貴重な機会であり、そういった意味でも本県にとって重要なマーケットであるとの認識です。

一方で、マーケット拡大に伴いラインナップも増える中、より多くの投資家の皆様に本県グリーンボンドを選んでいただけるような、発行体としての工夫も重要と考えております。本県は、予算における事業全てを17のSDGsゴールへの紐づけを行っており、投資家の皆様にとっての分かりやすさも意識した情報発信を心掛けております。この紐づけは、全自治体の中でも本県が先行して行っているものであります。こうした工夫や透明性の高さを以て、投資家の皆様に選んでいただけるよう、努めて参ります。

また、本日の対談の場のような投資家の皆様の希望やご意見を踏まえつつ、より良い形での発行となるよう努めるとともに、投資家の皆様との二人三脚をもって、「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現を目指して参りたいと考えております。

MUMSS/野村

服部様、ありがとうございます。大久保様、いかがでしょうか。

JARC
大久保様

はい。昨年度より、福井県様も参加されているグリーン共同発行地方債を含め、公共セクター、とりわけ地方債においてSDGs債の発行団体が増加しているとの認識です。しかし、「まだラインナップは限られている」というのが率直な感想です。

地方公共団体や財投機関のような公共セクターは、もともと事業内容がグリーン性やソーシャル性に資するものですので、SDGs債を発行するポテンシャルは非常に大きいと考えています。

その一方で、昨今は、地方債等においてもグリーニアムの消失が現実化しつつあり、自治体の皆さまにとってSDGs債を発行する経済的メリットが限定的になるのではないかといった懸念があります。その観点において、貴県のお考えなどあれはご教示いただけますか。

福井県
服部様

グリーニアムはコスト面でSDGs債の発行メリットの1つであることに間違いはないものの、それだけでSDGs債の発行可否が判断されるものではないと認識しています。SDGs債の発行を通じた発行体自身の取組みや取組姿勢の発信効果などを総合的に勘案して、今後も発行を都度検討することになると考えます。

対談企画（自動車リサイクル促進センター×福井県）

MUMSS 野村

ありがとうございます。最後に、福井県様より投資家の皆様へ、自動車リサイクル促進センター様より発行体の皆様へのリクエストについてお伺いしたいと思います。まずは服部様、お願いいたします。

福井県 服部様

是非、債券投資やSDGs投資をする際の判断軸や今後の悩みについて、幅広いご意見や考えを発信いただきたく考えております。本県が初のグリーンボンド発行に至ったことや、ここ数年で公共セクターにおけるSDGs債の発行量が急速な伸びを見せた通り、資本市場はスピード感を伴って変化しているものと考えます。こうした中、本県としても、投資家の皆様のお考えを踏まえた上での調達を推進したいため、幅広い声を寄せていただけると大変うれしく思います。

本県は、来年度以降も引き続き、グリーンボンドを中心にSDGs債の発行を検討して参ります。発行の詳細については、投資家の皆様のご希望を踏まえつつ、社会情勢や県の予算に応じた内容での発行としたく考えております。

今後も投資家の皆様に選んで頂けますよう、引き続き投資家との対話、情報発信に努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

MUMSS/野村

服部様、ありがとうございます。大久保様、お願いいたします。

JARC 大久保様

発行体全般へのリクエストとして、「積極的に情報開示を行うこと」が挙げられます。

2020年3月に東京証券取引所が上場会社向けにESG情報の開示の仕方についてハンドブックを公表しましたが、今後ますます情報開示が求められる時代になると予想されます。

発行体にはポジティブな情報だけでなく、ネガティブな情報をも開示・共有していただきたいです。また、SDGs債に投資を行った投資家に対する定期的なレポーティングを充実させることも望みます。

積極的に情報開示をしていただいたり、レポーティングを充実していただいたりすることで、より実りのあるエンゲージメントを行うことができると考えます。そういった意味では、福井県におかれましては8月にインパクトレポートでグリーンボンドに関するインパクトレポートをきっちりと出していただきましたので、本年度発行のグリーンボンドについても自信をもって応募することができましたし、本日のエンゲージメントについても有意義な機会にすることができました。不確実性が高まる時代においては、発行体と投資家とが一丸となって課題を解決すべき場面も増えてくると予想されるため、JARCも発行体とともに課題を解決して参りたいと考えます。

MUMSS 野村

服部様、大久保様、ありがとうございました。SDGs分野において先進的に取り組むご両名による本日のこの対談の場が、皆様の取組み・活動の更なる飛躍に繋がりますことを確信しております。本日はお時間いただき、ありがとうございました。

金融商品取引法第37条（広告等の規制）に基づく表示

留意事項

本資料は発行体の債券発行プログラム、アニュアルレポート、ホームページ等から取得したデータを基に作成したものであり、データとなる原文が日本語でない場合は原文の記述が優先します。弊社は情報の内容について最善を尽くすよう努力しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的にしたものではありません。銘柄選択、投資の最終決定はお客様ご自身で判断なさるようお願い致します。

（手数料等について）

本資料に取り上げられている発行体が発行する債券を当社が相手方となりお買付けいただく場合は、購入対価をお支払いいただきます。

なお、商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります。手数料等は商品毎に異なりますので、ご購入される場合は当該商品の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料をよくお読みください。

（格付について）

信用格付のうち、（◆）が付されている信用格付業者は金融商品取引法第66条の27の登録を受けていない信用格付業者です。当該信用格付業者より取得の信用格付については、別途ご案内の「無登録格付に関する説明書」をご確認ください

（債券の一般的なリスクについて）

債券の価格は、市場の金利水準の変化に対応して変動しますので、償還前に換金する場合には、損失が生じるおそれがあります。外貨建債券は、為替相場の変動等により損失が生じる恐れがあります。

- 信用リスク発行者（又は保証会社等）の経営及び財務の状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により価格が上下し、途中売却の場合に投資元本を割り込むことがあります。また、信用状況の悪化等により、元本や利金の支払いが滞ったり、支払い不能が生じることにより、元本を欠損するリスクがあります。
- その他のリスクの詳細については、個別の契約締結前交付書面等をご覧下さい。

有価証券の引受契約等（有価証券の引受け、有価証券の売出し、有価証券の募集若しくは売出しの取扱又は私募の取扱いを含みます。）に関するご留意事項（金融商品取引法第37条の規定により表示するものです。）

（手数料等について）

引受契約等に関し、引受手数料等をご負担いただきますが、引受形態、取引種類によって異なります。また募集・売出しに申し込まれる投資者への販売価格と発行会社・売出人への払込金額の差額の総額を引受証券会社の手取金とし、引受手数料等はいただかない場合があります。

（リスクについて）

募集・売出し等につきましては、株式相場、金利水準、為替相場等の変動および発行会社の財産の状況の変化等により、募集・売出し等の延期、中止を余儀なくされ、予定の資金調達が行えない可能性がありますので、あらかじめご理解願います。

また、売出しについては、売出価格が取得価額を下回ることによって損失が生じる恐れがありますので、あらかじめご理解願います。

（商号等）

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第2336号

（加入協会）

日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

241114DCM01-29
241114008